

1: 【The Black Note】第12話 奪われたキャンパス
2:
3: ■オープニング
4:
5: セレスモノローグ「後の世に、闇の書・ブラックノートと呼ばれた書物がある。それは、12の
6: 精霊核の伝説の裏に隠された歴史を書き記した漆黒の表紙の書物だった。決して歴史の表
7: に晒されることのなかった哀しくて、切なくて、心がおしつぶされてしまいそうなほどの
8: 真相。でも、それは飾られた偽りではなく、紛れもない真実――」
9:
10: ■タイトルコール
11: デュレ「The Black Note 第12話 奪われたキャンパス」
12:
13: ■本編
14: //場面転換
15: □大聖堂の裏口前で。
16: SE：二つの足音。
17:
18: デュレ「ここから先は二人きりです。助っ人は望めません」
19: セレス「判ってる。……あたしを信用して。何があってもキミを守ってみせる」
20: デュレ「わたしとしてはセレスに守られるなんて不本意なことなんだけど……仕方がありませんね」
21: セレス「そ、そんなこと言うなら、守ってあげないんだもん」
22:
23: SE：ドア開く音。
24: SE：足音。
25:
26: サスケ「デュレに……セレスか……（大あくび）今日は何の用事だ？」
27: デュレ「サスケ、あなたは本当にリボンちゃんのシルエットスキルなんですか？」
28: サスケ「いきなり何だ？ ……お前は思う？」
29: デュレ「はぐらかさないでください。答えをくれとは言わないですけど、ずるいです。……正直な
30: ところ、あなたがサスケでもサスケのシルエットスキルでも、リボンちゃんのシルエットス
31: キルでも何でも構わないんです。けど、わたしはサスケが生きてるような気がしてならない
32: んです」
33: サスケ「……そんなことか……。……サスケは死んだよ。――もし、生きていたら。迷夢の
34: プレスレットの中にひっそりと……」
35: デュレ「それは聞きました。今日の夜更けに……」
36: セレス「ね、一ついいかな？ キミがリボンちゃんのシルエットスキルだって言うなら、気が付い
37: て言うか、もちろん、知っていたんだよね？」
38: サスケ「もちろんだ」
39: セレス「それともう一つ。どうして、キミはここから出ないの？」
40: サスケ「……出ないんじゃない。出られないのさ。オレは封印の絵を守るためにここにいる。まあ、
41: いつも“姿形”を持って存在してるのでもないが、絵とオレの結びつきは強固だ。誰かが絵を
42: 運び出してでもしてくれない限り、オレはどこへも行けない。あまり、どこかへ行きたいと
43: も思わないが……？」
44: セレス「――淋しくないの？」
45: サスケ「淋しい？ 話し相手には久須那がいるしな。色んな挑戦者が来て面白かったよ。しかし、
46: オレに用があるんじゃないんだろう？ 行けよ。久須那のシルエットスキルに認められたお

47: 前たちだ。絵の番人として、拒絶する理由はない」
48: デュレ「ありがとうございます」
49:
50: SE：サラに足音。
51: SE：ドアが開いて。
52:
53: デュレ「……久須那さん、聞いていますか……。いえ、愚問ですね。聞いているはずですよ。ド
54: ローイングを解くか、それが無理なら封印破壊をします」
55: 久須那「やめろ。封印を解く……壊すことはわたしが許さない」
56: デュレ「どうして……ですか、久須那さん」
57: 久須那「シリアに何も言われなかったのか？」
58: デュレ「いえ、その、言われましたけど……。やらない方がいいって……」
59: 久須那「ならば、待て。急いでは事をし損じるぞ」
60: デュレ「しかしっ。機が来るのを待つだけがいいことは思えません。今じゃない。今じゃないと。
61: あなたもリボンちゃんも声高に叫びます。けど、それは本当なんですか？ 仮に過ぎ去った
62: 歴史が正しいものだと、わたしたちはここであなたの封印を目の前にして何もせずにと
63: だ待って、わたしの時代に帰ったと？」
64: 久須那「いや……」
65: デュレ「わたしはそうは思えません。わたしたちが何もせずに手をこまねいて帰るはずがありませ
66: ん。何故なら、今、わたしがそんなことはあり得ないと考えてるからです。今じゃないと言
67: えるのは全てを知ってたりボンちゃんの視点からものを見るからですっ！ わたしたちはこ
68: の先を知らない。だから、思うがままに行動する。そう、決めたんです」
69: セレス「……凄いいい舌ね。デュレ。あたしにや、そんなこと言えないわ……」
70:
71: SE：やる気のない拍手
72:
73: 久須那「――正直、言えば、わたしにかけられた呪詛を解ける人間がいない。呪詛を解けるのは東
74: 方の退魔師だけなのだ」
75: デュレ「何故？ 東方の退魔師がふらりと現れるのを待てと言うのですか？ そんなの非論理的で
76: す！」
77:
78: SE：足音。サム登場。
79:
80: サム「レイアの奴、来てなかったか。先走りすぎたようだ……。ふ～ん……。しかし、てめえらも
81: 来てるとはなあ。ちょっと意外だ」
82: セレス「な？ 何だって、キミがこんなところに来たの？」
83: ちゃっきー「う～ん♪ そりはね。ステキなお嬢さま方がおいらをお呼びになったからに他なら
84: ねえ」
85: セレス「……呼んでない。キミは呼んでないぞ」
86: ちゃっきー「いんや。呼んだ。せれっち、チミは潜在意識の奥底でおいらを呼んだのじゃ。凄まじ
87: く熱烈に、より情熱的にっ！ セれっちはおいらの虜なのじゃあ。『ああっ、ちゃっきー。
88: あなたが側にいないとあたり、もお、何も出来ない。淋しくて生きていけないお』って、
89: ね？」
90: セレス「ねえ、この生もの……。サスケに食べてもらっていい？」
91: サム「……食わねえと思うぜ。サスケは刺身は嫌いだ」
92: ちゃっきー「この珍味、美味と美味と称されるこのちゃっきーを愚弄する発言たあ許せねえ！ 土

93: 下座して謝罪するまで永久に喋り続けてやるう！」
94:
95: SE：ちゃっきー蹴り飛ばされる音。
96:
97: サム「でよ、てめえらは何をしにここに来たんだ？ まさか、また、試合ってことはねえよな」
98: デュレ「久須那……」
99: サム「何？ ……久須那がどうかしたのか？」
100: デュレ「……久須那さんの封印を解こうと思って……」
101: サム「何も、解けばいいじゃねえか。聞いたところじゃ、てめえが正統な禁術の継承者なんだろ？」
102: レイアがあの様で、シェラが死んでしまえば使えるのはてめえのただ一人だ。……。そで
103: めえが今こそ、封印を解く時だと思うんだろ？」
104: デュレ「はい」
105: サム「だったら、遠慮なくやってしまえ」
106: デュレ「しかし、久須那さんから同意が得られないままに危険な賭は……。精霊たちの加護を得ら
107: れない今、魔力が足りなくて失敗する公算もそれなりに……。でも、わたしはやる他ないと
108: 思うんです。失敗でも成功でも、結果が他の何だろうと、やりたいんです。……けど、無理
109: 強いしてまでやる価値があるのか……」
110: サム「久須那は？」
111: 久須那「断る」
112: サム「はあ、困ったな。……じゃ、俺が説得してやる」
113: ちゃっきー「Hey!! 旦那あ。久須那っちのお相手には欠かせねえサポートデスクをお忘れです
114: ぜえ？ へっへっへえ。おいらがいなけりゃ、てめえはただの朴念仁、借りてきた大猫ちゃ
115: ん。何も出来やしねえのさ。だ・か・ら♪ 共に久須那っちを撃破しようぞっ！」
116: サム「何をワケの判らねえことを言ってるんだよ」
117:
118: SE：踏みつけ！
119:
120: サム「さて、久須那ちゃん。俺の話聞いて……」
121:
122: SE：鉄拳！
123:
124: セレス「あ、殴られた」
125: デュレ「……蹴られてます……」
126: セレス「ねえ、あんな調子で説得なんか出来るの？ けちよんけちよんにされてお仕舞いじゃな
127: い？」
128: デュレ「伝説の英雄とあっても惚れた女には弱いのかしら……？」
129: セレス「弱いんだろうねえ、きつと。そうじゃなかったら、されるがままになってるわけないと思
130: うよ。サムだって強いんだし」
131: 久須那「どうして、お前は考えなしにものを言うんだ？ お前はわたしがどうなってもいいのか？」
132: サム「どうなっても、いいワケ……ねえだろ？ でもよ、デュレの……」
133: 久須那「すぐ、他の女のことだ……。——だって、わたしはお前と一緒にいたい。まだ、死にたく
134: ないっ！ わたしは……わたしはホントのわたしじゃないかもしれない。でも、この気持ち
135: は一緒なんだ。絵の向こうにいる久須那と一緒になんだ。わたしが感じて、経験したことは久
136: 須那のものなんだ。だから、だから……。……わたしはサムと一緒にいたいっ！ 今度は
137: ずっと、サムがおじいさんになるまで一緒にいたいんだ」
138: サム「てめえがこんなに我が儘とは思わなかったな」

139: 久須那「うるさい。たまにはいいだろ。だって、わたしはサムと共にありたいんだ。あの日から
140: ずっとそう思っていた。サムが帰ってくるのがあったら、二度と放さないんだって」
141: 久須那「だから、だから、信頼できる退魔師じゃなきゃ、イヤだった！ そうじゃないなら、このま
142: まがいい……。それはこの久須那も一緒だよ」
143: サム「久須那……。てめえの気持ちはよく判ったよ。——けどな」
144:
145: SE：平手打ち。
146:
147: 久須那「お前は判ってない。判った振りなんかしないでいいから」
148: サム「いてえな、てめえ。そう言う久須那が一番、久須那らしいのかもな。——他のことはどう
149: てことないのによ。色恋沙汰になると、感情がすぐ表に出ちまう、うぶなのな……」
150: 久須那「だ、だから、そんな恥ずかしいこと……言うなって、前から……」
151: セレス「……あの二人って、昔からずっと今まであんな調子だったワケ？」
152: デュレ「さあ……。ねえ、セレス。わたしは何て言っていたと言っていました？」
153: セレス「はい？ 何が？ いつ、どこで？」
154: デュレ「あれですよ、あれ。セレスが見たって言う夢の話。そこで、わたしは何て言っていました？
155: ——早く、答えてくださいっ」
156: セレス「無茶苦茶だ！ そんなこと言っただって、もう、一週間くらいの前の話なんて、すぐには
157: ……」
158: デュレ「つべこべ言わない。忘れたんなら、今すぐ、思い出さなさいっ」
159: セレス「……大嵐の暗闇の中で、キミは……。雨に打たれながらどこかの街並みに立っていたよ」
160: デュレ「それから……」
161: セレス「それから、大きな機械時計が見えて、キミはそれを指さしながら、叫んでいた……。手遅
162: れになる前に早く。あの時計が十三を指す前に、この街にはあなたたちが必要だって」
163: デュレ「それだけですか？」
164: セレス「まだあるよ。——黒い炎が街を飲み込む……。黒い翼の天使たちが……。それから……
165: ちよっと待ってよ。え～と……。……白い翼の天使たちを連れて……。どうのって」
166: デュレ「それです。白い翼の天使たちを連れて何だって言っていました？」
167: セレス「それが嵐に吞まれて聞こえなかったのよね。ただ、何かを越えるって言ってたような気が
168: するんだけど、何を越えるのかは判らないのよ。とにかく支離滅裂で、断片しか判らないの。
169: どうも、キミは二つか三つのことを同時に言っただのようになって思うんだけど……。真意が全
170: 然、判らないのよね」
171: デュレ「それは数日もしないで判ります。けど、それでは遅すぎるんです。断片でも、単語でも何
172: でもいいから、覚えていることは全部、吐き出さない」
173: セレス「う～ん。時計塔の門。……ちよっと待ってよ、時計塔の中にある白い翼の天使たちを連れ
174: て……。？ だったかなあ？ 一緒に探せば必ず見付かる……。時計塔の針が十三を指したら、
175: 黒い炎に街が吞まれる。黒い翼の天使たち。時を越える……かな？ そして、——タイムア
176: ウトだねって、もう、そっちじゃ会えないかもしれないって言ってた……」
177: デュレ「——時系列は滅茶苦茶のようですね。そして、意味がよく判らない……」
178: セレス「そ、それはあたしのせいじゃないよ。始めから、くちゃくちゃだったんだから」
179: デュレ「誰もセレスのせいだなんて言っています。この間のリボンちゃんの話を実に受けるなら、
180: わたしは彼の力を使ってあなたにメッセージを送ることになりますよね。そして、それはか
181: なり追い詰められた状況で、簡潔明快、セレスにちゃんと理解できるように伝えることが出
182: 来なかったと捉えるのが妥当ですよ？」
183: セレス「あの……。それってどさくさに紛れてあたしをバカにしてない？」
184: デュレ「細かいことは気にしないでください。——わたしたちが来るべき場所はここじゃなかった

185: のかもしれません」
186: セレス「じゃあ、どこなのさ？」
187: デュレ「シメオン時計塔……。セレスの夢と今ここで起こっていることを摺り合わせていくと時計
188: 塔に何かがあると思えません。……あなたの見た夢がわたしが送った想念だとしたらで
189: す。セレスの言ったキーワードの中で、大きく欠けているのは時計塔に関するだけです。
190: 白い翼の久須那も、黒い翼のマリスもレイヴンも迷夢も、時も越え、黒い炎の剣や魔力にも
191: 出会いました。けど、時計塔はまだ実際に目の当たりにしていません。……時計塔について
192: わたしたちが知り得たのは鐘の音がどんな音をしているかだけです」
193: セレス「行くほかないってこと？」
194: デュレ「……答えは……イエスです」
195: セレス「それじゃ、案ずるより産むが易し。はいいけど、あっちはどうするの？」
196: デュレ「放っておきましょう。痴話ゲンカのとぼっちりを食うのはごめんです」
197: セレス「だね。そいじゃ、いこか？」
198:
199: SE：駆け足で、外に出て行く。
200: ・しばらく時間が経過して……。
201: SE：シリアの足音。
202:
203: シリア「さてと、……あいつらはきちんとやってるかな？ ……何をやってるんだ、あいつらは？」
204: サスケ「見たとおりに痴話ゲンカだる」
205: シリア「身もふたもないことをさらりと言ってるのけるな、お前」
206: サスケ「それは親父譲り。オレがそう思うってことは親父殿も心のどこかでそう思ってるってこと」
207: シリア「イヤな奴だな、お前」
208: サスケ「それは親父殿のシルエットスキルだからな」
209: シリア「ま、いい——。おい、お前ら、いい加減にしておけよ。くだらないケンカなんてしてる場
210: 合じゃないだろう」
211: サスケ「聞こえてないな、あれは」
212: シリア「ああ、もう、じれったいっ！ デュレとセレスがどっかに行っていなくなってるぞ！」
213: サム「何？」
214: 久須那「何だって？」（サムと久須那のセリフは同時に。
215: シリア「——気が付くのが遅いんだよ。お前ら……」
216:
217:
218: //場面転換
219: □シメオン時計塔に向かう、エルフの二人。
220: SE：駆け足。
221:
222: セレス「時計塔に何もなかったらどうする？」
223: デュレ「何もないと困ったことになります」
224: セレス「困ったこと？」
225: デュレ「手掛かりが途絶えてしまいます。ひょっとしたら、教えてもらった魔法を持って直ぐさま
226: 帰ることが正しい選択だったのかもしれません。——それにはもう手遅れかもしれないです
227: けどね」
228: セレス「はにゃあ。って言うかさ。前から一度は訊こうと思ってただけけどお。……どうやって帰
229: るつもり？」
230: デュレ「あ……。そこまでは考えていませんでした……」

231: セレス「だってさ、水色の欠けらもないし、ジーゼに会いに……。ジーゼの精霊核の助けを借りる
232: にしても無事にエルフの森に辿り着けるかも判らない。どうすんよ？ ってさ。はあっ！
233: ま、全部、吐いちゃってすっきりした。後は野となれ山となれってね？」
234:
235: SE：セレス、デュレの背中をばしばし叩く
236:
237: デュレ「い、痛いから叩かないで。暴力反対です」
238: セレス「暴力じゃなくて、戯れて言ってもらえるかしら？ 悪意だけはないんよ、あたし」
239: デュレ「もお、何でもいいです。どうにでもなってください」
240: アルタ「——止まれ」
241:
242: SE：短く足音。
243:
244: セレス「父さんっ！ ——今までどこに」
245: アルタ「そんなことは後で教えてやる。いいから、戻れ、戻れ！ あの場を離れるな。取り返しの
246: 付かないことになる」
247: デュレ「……何故、わたしたちがあなたのいいなりにならなくてはならないんですか？」
248: セレス「デュレっ」
249: デュレ「セレスはしばらく黙っててください。今まで、あなたは第三者に徹してきたのに、何故、
250: 急にわたしたちに近づいてくるんですか？」
251: アルタ「手厳しいな……。判った。手短かに話す。……とにかく、ついてきてくれ」
252: デュレ「……どうして、時計塔に行っはいけないんですか？」
253: アルタ「……。何故、そう思った？」
254: デュレ「——ただ、何となくです。何もないなら別に……」
255: アルタ「そうか、なら、いい」
256: デュレ「……何だろう？」
257: セレス「父さん、どうして、戻るの？ あそこには何もない。少なくとも今は。——久須那の封印
258: の絵だって、解いたり、破壊する術を知らないなら、ないも同じでしょ？」
259: アルタ「そう見えたなら、お前たちもまだまだ」
260: デュレ「美術的価値は言うに及ばず、考古学、魔術的も……」
261: アルタ「——知らないとは言っていない。生きて動いている歴史をキミは知らなすぎると言うこと
262: だ。キミのはただの知識、理論武装は出来るようだが……。真の意味で身に付いていない
263: んだ」
264: デュレ「わたしがっ、頭でっかちとでもいいたいんですか？」
265: アルタ「違うのかい？ ——だが、この話はまた後だ。今は地下室に戻るのが先決だ」
266: デュレ「……走りながらなら、訊いてもいいですよね？」
267: アルタ「ああ、構わない」
268: デュレ「——単刀直入に訊きます。あなたの目的は何ですか？」
269: アルタ「俺の目的か……。——セレスは知ってるんだったな、あれは。無理でもいいんだよ。ただ、
270: これが最後の機会だし、これで終わりにする」
271: デュレ「知ってるんですね？ あなたの思い通りに事は運ばないことを」
272: アルタ「さあな。その問いに答える義理はない。……時の渡り鳥と呼ばれようと、所詮は巨大な
273: タペストリーに織り込まれた一本の糸に過ぎない。シリアもよく言っていたが、……知って
274: いる」
275: デュレ「——それがアルタさんの答えですか？ だとしたら、あなたは何をしてるんですか？」
276: アルタ「ふん。叶わない夢を追い掛ける哀れな男……」

277: デュレ 「……」
278: アルタ 「——ホンの少しで構わないんだ。蟻の巣穴ほどの隙さえあれば……。俺はバッシュさえ取
279: り返せたら、それだけでいいんだ」
280: デュレ 「でも、それは一番難しくして……。出来るはずがありません」
281: アルタ 「かもな。だが、出来ないワケじゃない。どんなちっぽけでも可能性のある限り、俺は諦め
282: ない。それだけの話だ」
283:
284: //場面転換
285: □レイヴン、大聖堂に到着。
286: SE：かさこそ。
287:
288: レイヴン 「……最近、出入りしたような形跡がある……。なるほど」
289:
290: SE：内部に侵入。足音。
291:
292: レイヴン 「驚いたな、これは……。——地下監獄か……？」
293:
294: SE：階段を下る音。
295:
296: レイヴン 「こんなところにあるなんて、俺の絵も妙に出世したもんだ」（わざとらしく
297: シリア 「っ レイヴン！ どうしてここが判った」
298: レイヴン 「それはお前が唯一にして、最大のミスを犯したから」
299: シリア 「レイアか……」
300: レイヴン 「お前が隠していたそうだな。お前が一緒にいることにより、その出入口、場所を魔力で
301: かき消す。後から入口の辺りをよくよく観察すると微細な揺らぎのようなものが見えたが、
302: 流石は精霊王だな。ただ共にいるだけで、俺に気取らせないまでの芸当が出来るとはね」
303: シリア 「そう言う話は他の機会にしてくれ」
304: レイヴン 「他に機会があればと思うが、そんな機会はないだろうし、作る気もないだろう？」
305: シリア 「当たり前だ。親父の仇も含めて、今、決着をつけよう」
306: レイヴン 「……マリスの言った通りか。あの時の意気地なし、おチビちゃんと同じとは思えない。
307: 随分と成長したな、シリア。ゼフィが生きていたら、きっとお前のことを誇りに思うぞ」
308: シリア 「そうあって欲しいと思うけどな。今のオレを見たらゼフィは嘆く」
309: レイヴン 「どうして、そう思う？」
310: シリア 「お前をここに呼び込むという最大の失敗をやらかしたからさ」
311: レイヴン 「なるほど、お前の考えの方が正論かも。では、さらに失望してもらおうかな。たまには
312: いいんじゃないか？ 退屈な生活に刺激を与えてくれる」
313:
314: SE：剣を構える。
315:
316: サム 「待てよ、シリア。俺に相手をさせてくれ。……一応、レイアが対を張れるんだぜ？ 俺だっ
317: て一対一でやってみてえ」
318: シリア 「バカはよせ。レイアの時は手加減をしていたに違いないんだ。サム相手にそんなことす
319: る理由がない。こてんぱんにやられてそれで終わりだぞ。相手はオレだ、レイヴン」
320: レイヴン 「……別にお前らを殺しに来たワケじゃないんだが……。俺は封印の絵さえ手に入れられ
321: たらそれでいいんだ。しかし……。強い戦士がいれば手合わせは願いたい。どうする？」
322: シリア 「……判った、好きにしろ。ただ、負けそうになったら、首、突っ込むからな」

323: サム 「へっ、ありがとよ」
324:
325: SE：構える音。
326:
327: 久須那 「サムっ」
328: サム 「大丈夫。今度はためえを哀しませるような真似はしねえ。適当なところでひくさ」
329: 久須那 「……信用できない……」
330: サム 「さあ！ 異彩の精霊・サラマンダー。来やがれ！ 今度はきっちり、格好いいところを見せ
331: てくれよ。へっ、名誉挽回、汚名返上の大チャンスをくれてやらああ！」
332: レイヴン 「——レイアも呼び出していたが、そいつ、何かの役に立つのか？」
333: サム 「少なくとも時間稼ぎにはなってるだろ？ そして、今度はこいつの本領を見せてやるさ。火
334: 炎術師・サムとサラマンダーが組めば無敵なんだ」
335:
336: //場面転換
337: □エルフの森。
338: SE：天使の羽の音のような雰囲気。
339:
340: ジーゼ 「！ 天使……？」
341: シリア 「ジーゼ？ どうか、したのか？」
342: ジーゼ 「いいえ……。何でもありません。——少し、お散歩をしますね。留守をよろしく」
343: シリア 「ジーゼ。オレも行くぞ。寝て待っているだけなんて、不甲斐なさすぎる」
344: ジーゼ 「いいえ、シリアくんは大人しくしてください。今度は言うことを聞いてもらいます。
345: ——それにきっと、大丈夫です。——何かあったら、必ず呼ぶから。それまで大人しくして
346: いなさい」
347: シリア 「判ったよ——」（拗ねたように
348: ジーゼ 「可愛いというか……何というかですね」
349:
350: SE：外にでる。
351:
352: ジーゼ （……取り越し苦労に終わればいい。けど、万一の時、シリアを逃がす時間くらいは……）
353: ジーゼ 「黒い翼の天使……マリス……？」
354: マリス 「お初に、森の精霊さま」
355: ジーゼ 「はい？」
356: マリス 「そんなに警戒するな。今日はケンカをしに来たワケじゃない。お前の仲間たちはわたしを
357: 信用してくれないようだから、無理強いするつもりはないけどな。わたしは戦いを好んでる
358: わけではない。目的を果たすためのただの手段だ。結果、邪魔者が多すぎるから好んでるよ
359: うに見えるのかな……。言葉で判ってくれるものには力を行使しない。理解してくれないも
360: ののみ、実力で排除する」
361: ジーゼ 「あなたの考えを改めることはしないのですか？」
362: マリス 「……ありとあらゆる可能性は検討した。納得できる反証を持ってこない限り、わたしは自
363: 身の考えを曲げたり、撤回するつもりはない……」
364: ジーゼ 「……そうですか……？」
365:
366: SE：そよ風。
367:
368: マリス 「……いい森だな」

369: ジーゼ「あ、ありがとう」
370: マリス「わたしもこの森は潰したくない。そして、潰すつもりもない。だが、それには条件があ
371: る。それは恐らく、言わなくても理解できてると思うが……？」
372: ジーゼ「ええ。判っています。この森にある精霊核を渡せと言うのでしょうか？」
373: マリス「そうだ。幾つ残っているのかわからないが、大人しく差し出せば、お前は自身の精霊核を失
374: わずに済む。——ゼフィのようになりたくなければ、全て差し出せ」
375: ジーゼ「嫌です。ここは居場所を失ったあの子たちの安らぎの場所。この森を失うことも、あの子
376: たちを渡すことも出来ません。ただのエネルギーとしか見えないあなたには……絶対に……」
377: マリス「頑なだな。その決意の固さは称賛に値するが、寿命を縮めるだけだとは思わないか？」
378: ジーゼ「否定はしません。でも、昔、イクシオンが命を賭けてこの森を守ってくれたように、わた
379: しはこの森とわたしの全てを賭けて、あの子たちを守らなくちゃならないと思います」
380: マリス「……お前の精霊核はきっと、透き通っていて綺麗なのだろうな……。透き通った緑色、無
381: 垢な煌めきを宿した精霊核そのままがお前になっているような気がするぞ。美しいとは思
382: けれど、それだけでは何も守れない」
383: ジーゼ「判ってます。でも、わたしだけ何もしないわけにはいかないですから」
384: マリス「そうだな……」
385: ジーゼ「わたしにもあなたの気持ちを変えられるかもしれないと思うから。わたしはあなたとお話
386: します」
387: マリス「その可能性……。なくはないな。しかし、容易ではない」
388: ジーゼ「ええ。でも、見てるだけなのはやめたんです。ずっと昔に」
389: マリス「そうか……。そうだな……。今日はお前と話せて良かったと思う」
390: ジーゼ「わたしもです。少しだけ、あなたを知りました。……でも、きっと、さよならです」
391: マリス「ああ、さよならだ。こんな風に話すことはないだろう」
392:
393: SE：マリス飛び去る。
394:
395: //場面転換。
396: □レイヴン対サム
397:
398: レイヴン「では、その本領を見せてもらおうかな」
399: シリア「サムはすっこんでる」
400: サム「す？ すっこんでる？」
401: シリア「やはり、お前は関係ない——。これはオレとお前の問題だ。そうだな、レイヴン？」
402: レイヴン「そうとも言えなくはないが……。もう、無関係ではないだろうか？」
403: サム「ふん、かまうもんか。いけっ！ サラマンダー！」
404:
405: SE：サラマンダー、ちょこちょこ。炎、ゴー。
406:
407: シリア「バカ、よせ、こんな狭いところで、そんな魔法を使われたら、逃げ場がないっ！」
408: サム「落ち着けよ。シリア。てめえは平気だろ？ 精霊王が慌てるってみともねえぞ？」
409: レイヴン「フンっ！マジックシールドっ」
410: 久須那「……サム、そう言った物騒なことはやめてくれ。わたしの絵が燃えたらどうするつもりだ。
411: お前はそういったデリカシーに欠ける。思いやりが……足りないんだっ」
412: サム「大丈夫……」
413: 久須那「何が、……大丈夫なんだ。わたしはともかく、キャンバスは布だぞ、油だぞ？」
414: サム「大丈夫。俺はそんなへまはぜってえしねえ！ 安心しな」

415: 久須那「安心できないから……！ 判った、信じる。……お前たちだけが頼りだぞ……」
416: サム「さあ、サラマンダー。お遊び終了。俺たちの本領発揮としゃれ込もうぜっ！ 異彩の精霊、
417: サラマンダー。俺さまにてめえの力を貸しやがれ、炎の魔法剣！」
418:
419: SE：ごおおと炎の剣の音。
420:
421: レイヴン「なかなか、面白い。だが、それくらいいいのか？」
422:
423: SE：剣と剣との戦い、しばらく。
424:
425: レイヴン「甘いっ！」
426: サム「ちえっ、流石に強いな。もはや、一筋縄とはいかねえか」
427: レイヴン「……ただの女たらしではいということか……。」
428:
429: SE：駆け足。
430:
431: デュレ「そこまでです！」
432: シリア「デュレ？ 来るなっ。やられるぞ！」
433: デュレ「逃げます……」
434: レイヴン「……ダークエルフと島エルフ。アルケミスタから無事に戻って来れたようで何よりだ。
435: 邪魔者も増えてきたことだし、そろそろ、用事を済ませて、帰らせてもらおう。——封印の
436: 絵はもらっていく」
437: セレス「ダメっ！ その絵はあたしんだっ！」
438: デュレ「それはセレスのじゃありません！」
439: セレス「うるさいっ！ その絵を持って行きたかったら、あたしたちをぶっ潰してから持って行け」
440: レイヴン「随分と大きく出たな。勇猛果敢な戦士か、それとも身の程知らずのただのバカか……」
441: シリア「……オレはただのバカの方に賭けたい気分だ」
442: サム「俺の分も賭けておいてくれよ」
443: セレス「きい〜、どいつもこいつも。誰か、あたしたちの勝ちに賭ける！」
444: デュレ「そんなの何でもいいです。逃げます。撤退、早く！」
445:
446: SE：デュレ、闇の護符を掲げる。
447:
448: レイヴン「俺は……やるだけ無駄だと思うぜ？」
449: デュレ「そんなこと、やってみなければ判りません」
450: レイヴン「俺が邪魔するんじゃない。この監獄が邪魔する。入ってきて判ったが、護符ごときの簡
451: 易魔法ではこの結界は越えられないんじゃないか？」
452: デュレ「しかし、一度は成功しました」
453: レイヴン「では、二度目は無いと言うことだ」
454: デュレ「そんなこととはありません」
455: サム「おい、シリア、行くぞ。あとはデュレに任せろ」
456:
457: SE：ちょっと足音。
458: SE：サムがシリアを抱えようとする音。
459:
460: シリア「そんなワケいくっ！ 封印の絵はオレが守る」

461: サム「つべこべ、言うんじゃねえよ。てめえ、重い。体重は一体どれだけあるんだ？」
462: シリア「バッシュは軽々だったぞ。……じゃない！ 降るせ」
463: サム「てめえの親父だって一人では天使をどうにも出来なかったんだろう？ ゼフィと久須那と
464: ……おまけで迷夢が居て、しかも、マリスが冷静さを失っている状態で辛うじてだろ？」
465: シリア「何でもいいんだよ！ 天使が相手なら頭数は一人でも多い方が……」
466: サム「どうした、てめえらしくもねえ。——少し、頭を冷やせ」
467: シリア「……すまん……。もう……。何もなくなしたくないんだ……」
468: デュレ「行きますっ！ キャリアアウトっ！」
469:
470: SE：空間転移魔法、失敗。
471:
472: レイヴン「どうやら、——上手くいかなかったようだな……」
473: デュレ「くっ」
474: 久須那「……絵は置いていけ……。お前たちだけ行け、走ってなら逃げられるだろう？」
475: レイヴン「ほう……。健気だな。エルフどもを逃がす犠牲になろうというのか」
476: 久須那「いいや」
477: デュレ「久須那さん……」
478: 久須那「いいか、デュレ。時期を見計らえ。お前はこの絵の行く末を知っている。未来を信じる！」
479: デュレ「……！ セレス、行きます。久須那さんの意図、あなたにも通じましたよね？」
480: セレス「わ、判ったような、そうでないような気もするけど、何となく……」
481:
482: SE：デュレ、セレスの手首を掴む
483: SE：駆け出す。
484:
485: レイヴン（思い通りに事が運ぶとは思うなよ……。お前たちはすでに俺の手のひらの上）
486: サム「急げ！ あいつは絶対に何かを企んでいるぞ」
487: レイヴン（グラスシールド……）
488:
489: SE：サムとシリアは逃げおおせる。
490: SE：何かにぶつかる音。
491:
492: セレス「うぎゃっ??」
493: デュレ「きゃっ」
494: セレス「何これ？ 何、この透明なガラス？ 壁？」
495: レイヴン「サムとシリアには正直興味ないんだ。あいつらだけでは何も出来ない。と言うと少し悪
496: いかな。出来なくはないが、決定打に欠ける。……居たところで何も出来まい？ それより、
497: お前たちをここで消した方がずっといい」
498: セレス「——あいつ、本気みたい……」
499: デュレ「ええ……。このままだと、勝ち目はないと思います。隙をついて、あれを破らないと」
500: レイヴン「簡単には壊せないぞ。……まあ、案ずるな。お前たちはともかく、この絵を今すぐ、
501: 破ってしまおうとは考えていない。……これは……」
502: セレス「——未練があるんでしょ？」
503: レイヴン「はん？ 言にくいこともサラリと言ったのけたな」
504: デュレ「セレス。思ってることを何でも言って、いたずらに刺激するのはよしてください」
505: セレス「あん？ 今更、何がどうなったって、大したことないでしょ？ ど～せさ、やり合わなく
506: ちゃならないんでしょ？ その時が早まるか、遅くなるか、それだけの話でしょ？」

507: デュレ「確かにそれだけの話かもしれませんが。でも、明日、アルタの指定した場所に行きたいなら、
508: ここで無用な戦いをすべきじゃないんです。何で、そんなことも判らないんですか」
509: レイヴン「アルタと会うのか？ お前たち……？」
510: セレス「そ、そうだよ。会っちゃいけないって言うの？」
511: レイヴン「いや……。小娘どもにアルタと接点があるとは……。興味をそそられた。——どうせ、
512: 命懸けにはならない。少しくらいなら遊んでやってもいい」
513: デュレ「——あなたにとって命懸けではないというなら、ハンデをもらってもいいですよ？」
514: レイヴン「……袋のネズミのくせにやけに強気だな……」
515: デュレ「窮鼠猫を嘯むとも言いますよ？」
516: セレス「ふんっ。論戦なんて幾らやっても不毛なだけなのよ」
517:
518: SE：セレス、腰の後に隠した短剣を手取る
519:
520: デュレ「やめ……」
521:
522: SE：短剣と長剣が交錯。
523:
524: セレス「ちっ！ ダメか」
525:
526: レイヴン「……圧倒的に切れが足りないな。もっと精進しないと、天使になんか勝てないぜ」
527: セレス「——うう……。？」
528: レイヴン「いざという時の本領の発揮の仕方が判らない。どのタイミングで、どういう攻撃をして、
529: どう守るか。追い詰められたら、どう切り返し、反撃するか。全然、なってない。このまま
530: では、——マリスには二人がかりでも勝てないな……」
531: セレス「……試合じゃないんでしょ？」
532: レイヴン「ああ、試合じゃない。——ダークエルフ、お前の望みは曲がりなりにもお前の望みを叶
533: えてやったぞ。今度は俺の望みをきけ」
534: デュレ「イヤです」
535: レイヴン「そう言うだろうと思っていた」
536: デュレ「な、何をするつもりですかっ！」
537: レイヴン「別に……。無用の人殺しは性に合わないんでね。そろそろ、帰らせてもらおうとね」
538: デュレ「ダ、ダメです。その絵を持って行かれては困ります」
539: レイヴン「お戯れを。俺はこれをもらっていけないとお姫さまにどやされるんだ」
540:
541: SE：久須那の絵に歩み寄る。
542:
543: レイヴン「——君らが無事にここから出られたら、また会おう。——パーミネイトトランスファー」
544:
545: SE：レイヴン、魔法で空間転移。
546:
547: セレス「ちょ、ちょっと待ちなさいよ！ あへ、どうすんのよお、デュレえ」
548: デュレ「触れても……」
549:
550: SE：ガラスをこんこん。
551:
552: デュレ「ショックも何もありませんね……。これはちょっと厄介かも……」

553: セレス 「ねえ、ホントにちょっとなの？ あたしにはちっともそうは思えないんだけど」
554: デュレ 「うるさい」
555: セレス 「な、何よ……」
556: デュレ 「闇の使い手、デュム・レ・ドゥーアが命ずる。光を滅せよ、闇の剣」
557:
558: SE：何かそんなような音。
559:
560: セレス 「……デュレ、剣なんてまともに使えるの？」
561: デュレ 「つ……、使えなくなっって使うしかないでしょ」
562:
563: SE：剣を振る。ギギギ。ガラスに傷が入るような音。
564:
565: デュレ 「――傷が入った……」
566:
567: SE：闇護符を出して、魔法発動。
568:
569: デュレ 「闇の間隙よりいずる漆黒の矛先。さあ、来い。アルティメイトランスっ！」
570:
571: SE：ドカカ。
572:
573: デュレ 「いけるっ！ セレスも手を貸しなさい」
574: セレス 「で、でも、あたしはあ……」
575: デュレ 「わたしが貸して欲しいのは"魔法"じゃありません。セレスの"魔力"を貸して欲しいんです。
576: 魔法は全然ダメかも知れないけど、魔力では誰にも負けていない。さあ……」
577: セレス 「う、うん……」
578:
579: SE：ガラスが割れる
580:
581: セレス 「やった、やったっ、デュレ？」
582: デュレ 「呑気に喜んでる場合じゃありませんよ。レイヴンを相手に……しかも、テキトーに手加減
583: されて、これじゃあ、マリスになんか歯も立ちません」
584: セレス 「あん？ じゃあ、迷夢に特訓を頼もうかしら？」
585: デュレ 「――迷夢には悪いですけど、マリスには見劣りしてしまいます」
586: セレス 「ま、ね。けど、迷夢のあの読めない戦いぶりに少しでもついて行ければ、ちょっぴり気が
587: 楽かもよ？」
588: デュレ 「余計気が重くなると思いますよ」
589: セレス 「それでも……、あ……。うん……。休もう……？ カフェに行っさ。珈琲でも、紅茶で
590: も、何でも飲みながらね？」
591: デュレ 「朝食も食べていませんよ。すっかり忘れていました。……セレスにしては珍しいですよね。
592: 色気よりも食い気、どこかに吹っ飛んでいくよりもご飯。なのにね」
593: セレス 「あ～、たまにはそんなこともあるのよ。あたしにだって、こう、真面目に考えて、ご飯を
594: 忘れちゃったりするのよ？」
595: デュレ 「ごく希にですけどね」
596: セレス 「でも、本当にどうしよう。……久須那の絵はレイヴンに渡っちゃおうし。あたしたちは為す
597: 術まるでなし。な～んかもう、このまま帰っちゃいたいくらい」
598: デュレ 「でも、残念ながら帰りの切符は持ち合わせていません」

599: セレス 「なんだよねえ。え、片道切符ってこと？」
600: デュレ 「出発した時のことを考察すると、必要なアイテムは判るんですけど……。精霊核と……恐
601: らく、切っ掛けを作るのに精霊核の欠けらというか、何というかそんなようなのが一つ。で
602: も、リボンちゃんは精霊核の記憶を辿って過去へ行くと言っていたような気がするんですよ
603: ね？」
604: セレス 「だったらどうなの？」
605: デュレ 「精霊核の記憶にあるはずのない未来へはどう戻ったらいいんでしょうね？」
606: セレス 「い？ つまり、それって帰れないってこと？ ……約束が違うじゃん。リボンちゃんめ！」
607: デュレ 「……セレス。体力の無駄遣いはやめなさい」